

「障がいのある幼児児童生徒とのかかわり合いを考える」

日時	平成29年9月20日(水)	受講者	35名	公開講座受講者	9名
----	---------------	-----	-----	---------	----

目的 障がいのある幼児児童生徒の特性や発達に応じたかかわり合いについて、基礎的・基本的な研修を行い、指導力の向上を図る。

講義1「障がいのある子どもの理解とかかわり合いの基礎」 特別支援教育センター 指導主事 林 裕 子
 演習「障がいのある子どもとのかかわり合いの基礎」 特別支援教育センター 指導主事 大竹 奈保子
 講義2「子どもの発達をふまえた障がいのある幼児児童生徒とのかかわり合い」【公開講座】
 実践女子大学 生活科学部 生活文化学科
 教授 長崎 勤 氏

<p><講義1></p> <p>子どもとの日々のかかわり合いにおいて、その子をありのままに理解しようと努力することで、その子の中にある豊かな世界に気づくことがあります。障がいのある子どもを理解しようとする際に「子どもを主語にして考える」という視点が大切であることを実践例なども交えながら学びました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">子どもを主語にして考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの行動が気になったとき、その子と同じ目線で、同じ方向を見してみる(注意の共有)。 ○子どもはなぜ困っているのか、子どもを主語にして背景を探ってみる。 </div>	<p><演習></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px;"> <p style="text-align: center;"><実態把握のポイント></p> <p>「事実」と「推察」を区別して考える 「推察」=「こうかな」という仮定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの気持ちや背景 ②把握した事実がどこにつながるか </div> </div> <p>授業のVTRを視聴し、対象生徒の活動の様子、推察する対象生徒の気持ちや特性をワークシートで整理し、グループに分かれて意見交換をしました。①子どもの行動をしっかりと観る ②推察して意味づけする ③子どもに返して反応を確かめる ④再び意味を考える これらの丁寧な繰り返しにより、子どもへの理解を深めることを学びました。</p>
--	--

<講義2> [公開講座]

実践女子大学教授の長崎先生より、「コミュニケーション発達支援の考え方とスキル」について、ワークショップも交え講義をいただきました。大切なのは、「人と何かを共にし(share)、またそのことを楽しむこと=協同活動(co-operative activity)」とおして「誰かのために何かをする」という役割意識を育てること。障がいのある子どもにおいても、特別な配慮(教育的かかわり)により豊かなコミュニケーションが築かれていくことを学びました。

発達を促す援助：少し上の段階に取り組む
達成レベル(N)
達成レベルの1つ上のレベル(N+1)

【教育的かかわり】

- ①遅延(子どもからの反応を5秒待つ)
- ②モデル提示(手本を見せる)
- ③身体援助(最終的に身体援助をする)



受講者の感想

- 障がいを問わず、子どもたちの発達において、今後役立つ内容であり、また自分の日々の保育を見つめ直すことができました。(保育士)
- その子のことを考えるときに、一人ではなくいろいろな角度から見て、話し合うことが大切だと改めて感じました。(幼稚園教諭)
- 私の考えていることを理論的に後押ししてもらったようで自信が持てました。子どもの実態の見取り方、支援の段階の捉え方が少し理解できました。(小学校教諭)
- 特別支援教育は教育の原点と改めて感じる事ができました。(小学校教諭)
- 他校種の先生方の話が聞けてよかった。実践的な内容をさらに聞きたいと思いました。(特別支援学校教諭)
- 実態を丁寧に評価し、ねらいをしっかりとってかかわることを改めて大切にしようと思いました。(特別支援学校教諭)
- 講師の先生方の体験談やワークショップなどを通して、子どもを理解するヒントになりました。(高等学校教諭)

